

平成28年度（春季入学）

**山形大学大学院医学系研究科  
生命環境医科学専攻（博士前期課程）**

**学 生 募 集 要 項  
（第2次募集）**

平成27年11月

山 形 大 学

## 目 次

### 生命環境医科学専攻（博士前期課程）学生募集要項（第2次募集）

1. アドミッション・ポリシー	1
2. 募集人員	1
3. 出願資格	1
4. 入学資格審査	2
5. 出願手続	2
6. 入学者の選抜方法	3
7. 受験者心得	4
8. 合格者の発表	4
9. 入学手続	4
10. 授業料	4
11. 注意事項	5
12. その他	5
長期履修学生制度について	6
生命環境医科学専攻（博士前期課程）入学案内	7
生命環境医科学専攻（博士前期課程）教育研究講座等一覧	8
生命環境医科学専攻（博士前期課程）教育研究講座等の研究内容と指導内容	9
出願書類	
●入学願書・写真票・受験票	
●志望理由書	
●払込書【大学院医学系研究科生命環境医科学専攻（博士前期課程）用】	
●確認書	
●ラベル票	
●受験許可書	
入学資格審査用書類	
●入学資格審査願	
●入学資格認定審査調書	
●業績調書	

# 生命環境医科学専攻（博士前期課程）学生募集要項（第2次募集）

## 1. アドミッション・ポリシー

現代社会では、医学研究に加えて、生命と環境の関わりを理解し、社会構造の変化に医療・行政・福祉の立場から柔軟に対応して、人の一生を包括的にサポートすることにより、健康で豊かな生活を可能にする戦略を探求する人材が求められている。

本専攻は、医療分野に限定することなく、人文社会科学、工学、福祉、行政など様々な分野の研究者が集まり、究極的に学際的な研究組織を構築することにより、こうした課題の有効で具体的な解決を目指すため、分野にこだわらず意欲のある優秀な学生を広く募集する。

## 2. 募集人員

専修名	コース名	募集人員
		平成 28 年度 (春季入学)
生命環境専修		5 人
医薬品医療機器評価専修		3 人
がんプロフェSSIONAL養成専修	がん口腔ケア歯科衛生士養成コース	3 人

※「平成 28 年度（春季入学）」は平成 28 年 4 月入学となる。

## 3. 出願資格

次の各号のいずれかに該当する者、又は次の各号のいずれかに平成 28 年 3 月までに該当する見込みの者

- (1) 学校教育法（昭和 22 年法律第 26 号）第 83 条第 1 項に定める大学（以下「大学」という。）を卒業した者
- (2) 学校教育法第 104 条第 4 項の規定により学士の学位を授与された者
- (3) 外国において、学校教育における 16 年の課程を修了した者
- (4) 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における 16 年の課程を修了した者
- (5) 我が国において、外国の大学の課程（その修了者が当該外国の学校教育における 16 年の課程を修了したとされるものに限る。）を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了した者
- (6) 専修学校の専門課程（修業年限が 4 年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。）で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者
- (7) 文部科学大臣の指定した者（昭和 28 年文部省告示第 5 号）
- (8) 大学に 3 年以上在学し、又は外国において学校教育における 15 年の課程を修了し、本研究科において、所定の単位を優れた成績をもって修得したものと認めた者
- (9) 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における 15 年の課程を修了し、本研究科において、所定の単位を優れた成績をもって修得したものと認めた者
- (10) 我が国において、外国の大学の課程（その修了者が当該外国の学校教育における 15 年の課程を修了したとされるものに限る。）を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了し、本研究科において、所定の単位を優れた成績をもって修得したものと認めた者
- (11) 本研究科において、個別の入学資格審査により、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者で、22 歳に達したもの

#### 4. 入学資格審査

「3. 出願資格（8）～（11）」により出願しようとする者については、事前に書類による個別の入学資格審査を行うので、次の（1）に掲げる書類を提出すること。

##### （1）入学資格審査提出書類

- ① 「入学資格審査願」（本要項に添付の所定の用紙）
- ② 「入学資格認定審査調書」（本要項に添付の所定の用紙）
- ③ 「業績調書」（本要項に添付の所定の用紙）
- ④ 「最終学校成績証明書」（最終出身学校長が作成し、厳封したもの。）
- ⑤ 「最終学校卒業証明書」
- ⑥ 「審査結果通知用返信封筒」（長形3号封筒に郵便番号・住所・氏名を記載し82円分の切手をはったもの。）

なお、入学資格審査出願者は、出願書類等の提出に先立ち、志望講座等（8頁参照）を選定の上、あらかじめ指導教員と面談すること。

##### （2）入学資格審査書類提出期間

平成27年11月9日（月）から11月12日（木）まで

受付時間は、9時から16時30分までとする。

なお、郵送の場合は書留速達扱いとし、封筒に「生命環境医科学専攻（博士前期課程）入学資格審査書類在中」と朱書きすること。

郵送の場合も提出期間内必着とする。

##### （3）入学資格審査書類の提出先

〒990-9585 山形市飯田西2丁目2-2

山形大学医学部入試担当 電話（023）628-5049

##### （4）入学資格審査結果の通知期日

平成27年11月27日（金）

#### 5. 出願手続

##### （1）出願受付期間

平成27年12月7日（月）から12月10日（木）まで

郵送の場合も、12月10日（木）必着とする。

受付時間は、9時から16時30分までとする。

なお、郵送の場合は書留速達扱いとし、封筒に「生命環境医科学専攻（博士前期課程）出願書類在中」と朱書きすること。

##### （2）出願書類等及び検定料

次に掲げる書類を出願期間内に提出すること。

出 願 書 類	出 願 書 類 作 成 上 の 注 意
① 入学願書 写真票 受験票	本要項に添付の所定の用紙を使用すること。 ※「4. 入学資格審査」で出願する者は、『入学資格審査結果通知書』の写しを添付すること。
② 成績証明書 注)	最終出身学校長が作成し、厳封したもの。
③ 卒業(見込)証明書 注)	最終出身学校長が作成したもの。
④ 学士の学位授与証明書 ※「3. 出願資格」(2) で出願する者のみ	大学評価・学位授与機構の発行した学位授与証明書を添付すること。 なお、取得見込みの者は、「大学評価・学位授与機構に学位授与の申請（予定）をしている。」旨明記した証明書（様式随意）で、出身学校長が作成したものを提出すること。
⑤ 志望理由書	本要項に添付の所定の用紙を使用すること。
⑥ 研究計画書	生命環境医科学研究の課題、動機、目的、方法について、A4判用紙1枚（様式随意）にまとめること。

出 願 書 類		出 願 書 類 作 成 上 の 注 意
⑦	山形大学入学試験 検定料納付証明書	<p>1. 検定料 30,000円</p> <p>2. 払込期間 平成27年11月30日(月)から12月10日(木)まで</p> <p>3. 払込方法</p> <p>(1) 本要項に添付の「払込書【大学院医学系研究科生命環境医科学専攻(博士前期課程)用】」を用いて、ゆうちょ銀行又は郵便局で払い込むこと。 なお、ATM(現金自動預払機)は使用できません。必ず窓口で払い込むこと。</p> <p>(2) 各票の※印欄に、志願者(本人)の郵便番号・住所・氏名・電話番号をボールペンで正確に記入すること。</p> <p>(3) 「振替払込請求書兼受領証」及び「山形大学入学試験検定料納付証明書」をゆうちょ銀行又は郵便局の窓口で受け取る際には、必ず受付銀行又は局の「日附印」があることを確認すること。</p> <p>(4) ゆうちょ銀行又は郵便局の窓口で受け取った「山形大学入学試験検定料納付証明書」を提出すること。</p> <p>(5) 既に払い込んだ検定料は、次の場合を除き、いかなる理由があっても返還しない。 なお、申出期限は平成28年3月31日(木)までとする。 ① 検定料を払い込んだが出願しなかった場合(出願書類を提出しなかった場合又は出願が受理されなかった場合を含む。) ② 誤って検定料を二重に払い込んだ場合 ③ 出願後に国費外国人留学生奨学金の延長が決定し、本学に入学する場合 ※返還請求についての問い合わせ先：医学部入試担当</p> <p>4. 本学出願後に入学後の国費外国人留学生奨学金の受給が決定されている者については、検定料は不要なので、必ず申し出ること。</p>
⑧	確認書	本要項に添付の所定の用紙を使用すること。(外国人留学生のみ)
⑨	返信用封筒	受験票の送付に使用するので、定形封筒(長形3号)に志願者の氏名及び送付先を記入し、82円分の切手をはること。なお、速達を希望する者は、362円分の切手をはること。
⑩	ラベル票	本要項に添付の所定の用紙に志願者本人の郵便番号・住所・氏名・電話番号を記入し提出すること。
⑪	受験許可書	出願時に在職中の者は、本要項に添付の所定の用紙を使用し提出すること。

注) 入学資格審査認定により出願しようとする者は、上記②③を提出する必要はない。

(3) 出願書類等の提出先

〒990-9585 山形市飯田西2丁目2-2

山形大学医学部入試担当 電話 (023)628-5049

なお、出願者は、出願書類等の提出に先立ち、志望講座等(8頁参照)を選定の上、あらかじめ指導教員と面談すること。

## 6. 入学者の選抜方法

入学者の選抜は、学力検査等、成績証明書、志望理由書及び研究計画書を総合して行う。

(1) 学力検査等

英語、小論文及び志望等についての口頭試問

(2) 学力検査等日時・科目

期 日	時 間	科 目	備 考
平成28年 1月8日(金)	9:00~10:30	英語	英和・和英辞典の持ち込み可(電子辞書を除く。)
	11:00~12:30	小論文	和文又は英文の小論文
	14:00~15:30	口頭試問	志望等について(1人当たり10分程度)

- (3) 学力検査等場所  
山形大学医学部 (山形市飯田西2丁目2-2)

## 7. 受験者心得

### (1) 受験票について

- ・試験当日は、受験票を持参し、試験場に入場する際に提示すること。
- ・試験場では、常に受験票を携行し、受験中は係員の指示に従うこと。また、試験室では受験票に記載されている受験番号と同じ番号がはられている席に着くこと。
- ・試験当日、受験票を忘れた場合は、入場の際、係員に必ず申し出て、仮受験票発行の手続きをとること。
- ・受験票を紛失した場合は、速やかに医学部入試担当に申し出ること。

### (2) 受験者は試験開始時刻 30 分前までに試験場に到着すること。

### (3) 試験開始時刻に遅れた場合は、係員に申し出て指示を受けること。

### (4) 試験開始後 20 分を経過した後は、試験室への入室は認めない。

### (5) 筆記試験等における留意点について

- ・**受験票**のほかに試験時間中、机の上に置けるものは、**鉛筆** (シャープペンシルも可)、**消しゴム**、**鉛筆削り** (電動式・大型のもの・ナイフ類を除く。)、**時計** (辞書、電卓、端末等の機能があるもの、それらの機能の有無が判別しづらいもの・秒針音のするもの・キッチンタイマー・大型のものを除く。)、**眼鏡**、**ハンカチ**、**ティッシュペーパー** (袋又は箱から中身だけを取り出したもの。)、**目薬**とする。なお、英語の試験の際は、**英和・和英辞典** (電子辞書を除く) の持ち込みを可とする。
- ・試験室では、他人のものを借用したり、共用してはいけない。
- ・不正行為があると認められた者の答案は、すべて無効とする。

### (6) 携帯電話、スマートフォン、腕時計型端末等の電子機器類は試験室に入る前に必ずアラームの設定を解除し電源を切っておくこと。試験時間中に、これらをかばん等にしまわず、身に付けていたり手に持っているとな不正行為となることがある。

### (7) 試験が午後にはわたるため、昼食を持参することが望ましい。

## 8. 合格者の発表

平成 28 年 1 月 22 日 (金) 11:00 (予定)

医学部掲示板に受験番号を掲示するとともに、合格者に通知する。

なお、電話等による合否結果の問い合わせには一切応じない。

## 9. 入学手続

### (1) 入学手続期間

平成 28 年 3 月 1 日 (火) から 3 月 4 日 (金) まで

### (2) 納付金

入学金 282,000 円

### (3) 提出書類

① 入学誓書

② 写真 (3 か月以内撮影, 上半身, 無帽, 正面, カラー, 縦 4.0cm × 横 3.0cm)

③ その他

※入学手続の詳細については、合格通知の際に本人宛てに通知する。

## 10. 授業料

### (1) 納付金

授業料 535,800 円 (年額) (予定額)

### (2) 納付方法等

入学後に納付する。

「年 1 回払い」、「年 2 回払い」、「年 10 回払い」、「年 10 回ボーナス併用払い」から選択できる。

- (注) ①上記の金額は、未確定のため予定額である。  
②在学中に改定が行われた場合は、改定時から新授業料が適用される。  
③納付方法等詳細については、合格通知の際に通知する。

#### 1 1. 注意事項

- (1) 出願手続後の提出書類の内容変更は認めない。  
(2) 提出書類の記載事項と事実が相違していることが判明した場合には、入学決定後であっても、入学許可を取り消すことがある。  
(3) 本学は、入学試験に関する個人情報は次の目的のために利用し、当該情報を第三者に開示、提供及び預託することはない。  
①入学者選抜試験実施のため  
②入学手続業務のため  
③入試統計調査のため  
④就学上必要な本学での業務のため  
⑤その他大学として必要な業務のため

#### 1 2. その他

本学生募集要項の請求、その他問い合わせ等は、山形大学医学部入試担当あてとし、郵送の場合は返信用封筒（角形2号に郵便番号・住所・氏名を明記し、250円分の切手をはったもの。）を同封すること。

## 長期履修学生制度について

この制度は、学生が職業を有している等の事情により、標準修業年限（2年）を超えて一定の期間にわたり計画的に教育課程を履修し、修了することができる制度である。  
希望する場合は、事前に下記担当まで連絡すること。

### 1. 対象者

職業を有する者又はその他やむを得ない事情のある者を対象とする。

### 2. 長期履修期間

標準修業年限（2年）を、2年を限度として延長することができる。

ただし、長期履修学生が、修業年限の2倍（4年）を超えても、なお修了出来ない場合は、除籍の対象となる。

### 3. 申請方法等についての問い合わせ先及び申請書提出先

〒990-9585 山形市飯田西2丁目2-2

山形大学医学部大学院教育支援担当 電話 (023)628-5052

なお、長期履修に関する申請書は、入学時（手続時）に受け付ける。

ただし、必要な場合は、修了予定学年の開始前まで申請することができる。

### 4. 授業料

(1) 長期履修における授業料年額は次のとおりとなる。

授業料年額 × 標準修業年限（2年） ÷ 許可された修業年限

(例) 修業年限が4年で許可された者の授業料（平成27年度）の年額  
 $535,800円 \times 2年 \div 4年 = 267,900円$ （年額）

(2) 授業料の決定は、長期履修結果通知時に行う。

(3) 在学中に授業料の改定が行われた場合は、新授業料が適用される。その際は、改めて通知する。



## 生命環境医科学専攻（博士前期課程）入学案内

### 1. 目的

本専攻は、医学部出身者のみならず、人文社会科学、理学、工学、薬学、農学、コメディカル、行政など幅広い分野から学生を受け入れ、問題解決型の能動教育を実践し、来るべき高齢化社会に充分に対応しうる生命環境医科学の研究・開発を担う学生を養成する。

高邁な生命倫理・社会性、地域医療の発展に貢献する判断力、実行力及び独創性に富む人間性豊かな人材を育成することを目標とする。

がんプロフェッショナル養成専攻では、がん対策の一層の充実を図るため、若い人材を啓発し、専門資格取得のために必要な学識・技能を習得させ、学際的かつ総合的な臨床研究推進能力を有したがん専門医療者を養成する。

### 2. 修業年限

博士前期課程（修士課程）：2年

### 3. 所属講座及び研究指導教員

学生の研究指導及び履修指導を行うため、学生ごとに所属講座及び研究指導教員を定める。

### 4. 大学院設置基準第14条による教育方法の特例による教育の実施

近年、大学院における社会人の再教育への要望が高まっている。このことは、医学・医療の分野において一層顕著であるが、通常教育体制では、勤務のかたわらの就学には困難が伴う。

このため、本研究科では、大学院設置基準第14条に規定する教育方法の特例による教育を次により実施するものである。

カリキュラムは、一般学生を対象とする平日の他に、社会人学生を対象として、夜間、土、日及び当該社会人の多くが休暇等をまとめて取り易い、夏季休暇期間等に設定し、単位を修得しやすいように配慮する。

なお、授業科目の履修は、研究指導教員と十分に話し合いその指示を受けること。

（参考）「大学院設置基準第14条」

大学院の課程においては、教育上特別の必要があると認められる場合には、夜間その他特定の時間又は時期において授業又は研究指導を行う等の適当な方法により教育を行うことができる。

### 5. 学位授与

課程修了の要件を満たした者に、次の学位を授与する。

博士前期課程（修士課程）：修士（医科学）

### 6. 奨学金制度

独立行政法人日本学生支援機構の奨学金制度がある。

## 生命環境医科学専攻（博士前期課程）教育研究講座等一覧

### 【生命環境専修】

部 門	講座名
社会環境予防医学部門	公衆衛生学
	医療政策学
	がん医療学
	医療情報学
臨床的機能再生部門	脳神経外科学
	高次脳機能障害学
	リハビリテーション医療学
分子疫学部門	内科学第三（神経・内分泌代謝学）
	血液・細胞治療内科学
	生化学・分子生物学
	生命情報工学
	動物実験医科学
	遺伝子実験医科学
	遺伝情報解析学

### 【がんプロフェッショナル養成専修】

がん口腔ケア歯科衛生士養成コース
------------------

### 【医薬品医療機器評価専修】

部 門	講座名
社会環境予防医学部門	医薬品医療機器評価学

### 【所属講座を問わず専攻できるコース】

がん口腔ケア歯科衛生士養成コース
------------------

## 生命環境医科学専攻（博士前期課程）教育研究講座等の研究内容と指導内容

講座名・指導教員名等	研究内容・指導内容
<p>公衆衛生学 山下 英俊 (兼) 川崎 良</p> <p>TEL : 023-628-5260 E-mail: ryok@med.id. yamagata-u.ac.jp</p>	<p><b>【研究内容】</b> 公衆衛生学は人々の健康を保持増進させるための科学であると共に、実践活動である。つまり、公衆衛生学とは、疫学的手法を駆使して人々の健康を阻むあらゆる事象を対象にその関連要因を明らかにした上で、予防対策を樹立し、またその対策の評価を行うという一連の過程を包含している。本講座では、そのコンセプトに沿って、以下のような研究を行っている。</p> <p>(1) 生活習慣病の効果的な予防対策とその評価：高血圧、糖尿病、がん等の関する疫学調査、臨床研究を通じ、効果的な予防対策の確立を目指した研究を行っている。</p> <p>(2) 高齢者の保健、医療、福祉に関する研究：山形県内外の自治体の要請を受け、高齢者の健康状態、医療受療状況、介護福祉、認知症予防活動などの研究を行う。</p> <p>(3) 失明予防対策：主に成人の失明原因についての疫学調査、臨床研究、検診についての研究を行う。</p> <p>(4) 山形県コホート研究：山形大学医学部メディカルサイエンス推進研究所が行っている分子疫学コホート研究の計画、実施、また、種々の疫学研究を行う。</p> <p><b>【指導内容】</b> 公衆衛生学の守備範囲はきわめて広く、上記の眼目を達成するためには医学の分野にとどまらず、多くの分野の知恵を集結しなければならない。従って、将来公衆衛生学を志す医師はもとより、自らの専門としている分野を公衆衛生に生かしたいと考える多くの人々に門戸を開放したい。指導内容としては、公衆衛生学の基本的な方法である疫学に重点を置き、医学統計学の基本的習得を目指し、その上で各自が関心を持つテーマについて個別に指導助言する。</p>
<p>医療政策学 村上 正 泰 伊藤 嘉 高</p> <p>TEL : 023-628-5931 E-mail: mmurakami@med. id.yamagata-u.ac.jp</p>	<p><b>【研究内容】</b> 医療資源の適正配置を通じた質の高い地域医療提供体制の構築と持続可能な医療保険制度の運営に関する研究</p> <p><b>【指導内容】</b> 地域における患者動向やそれぞれの医療機関において提供している医療内容に関する分析を踏まえながら、医療の質の評価や医療経済などの多面的な観点から、医師、看護師等の医療従事者の適正配置および医療機関の機能分化や連携の課題について実証的な研究を行うことにより、地域医療全体の適正な政策的なマネジメントのあり方はもとより、効率的かつ安定的な医療機関経営や地域の中でのポジショニングに関する戦略策定のあり方についての研究を指導する。更に、医療提供体制と医療保険制度に関する政策のこれまでの変遷を歴史的に検証した上で、少子高齢化に伴って社会経済構造が変化する中で、質の高い医療システムを持続的に構築していくための政策手法について、法律的、行政的、経済的な視点を交えながら、研究を指導する。医療法をはじめとする関連法規や診療報酬制度について、医療の質の向上にとって望ましい資源配分のあり方や医療機関経営に与える影響などに関する研究について指導する。</p>
<p>がん医療学 山下 英俊 (兼)</p>	<p><b>【研究内容】</b> がん医療に関する次のような臨床疫学的研究。</p> <p>(1) がんの自然史に関する研究 (2) 診断検査の精度に関する研究 (3) 無作為化比較試験等、治療効果の評価に関する研究 (4) がん検診の有効性評価に関する研究</p> <p><b>【指導内容】</b> 上記の研究テーマに沿った臨床研究について指導する。</p>

講座名・指導教員名等	研究内容・指導内容
<p>医療情報学 山下 英俊 (兼)</p>	<p><b>【研究内容】</b> 医療情報のデータベース化に関する研究とそれを利用した効果的な地域医療体制の構築に関する研究が主たるテーマ。本学における院内がん登録を含めた疾患登録室の充実強化を図るほか、山形県における医療情報ネットワークを構築するための研究を進める。</p> <p><b>【指導内容】</b> 上記の研究テーマに関する研究について指導・助言する。</p>
<p>脳神経外科学 園田 順彦 小久保 安昭 櫻田 香</p> <p>TEL : 023-628-5349 E-mail: nouge@mws.id. yamagata-u.ac.jp</p>	<p><b>【研究内容】</b> 脳神経外科の対象疾患は、脳血管障害・脳腫瘍・機能的脳神経外科・先天奇形・てんかん・脊椎脊髄・頭部外傷など非常に幅広く多岐にわたります。当教室ではこれらに対し、最新の脳科学に基づいた臨床および基礎研究を行っています。その中でも MEG や高磁場 MRI を用いた最新の脳機能イメージングと、術中に患者を麻酔から覚醒させ、高次脳機能を調べ、脳機能を温存しながら病変切除を行う“覚醒下手術”により、症例ごとに機能温存治療を行うとともに、得られた知見により、脳機能イメージングの検証し、その結果を世界に向けて発信して来ました。また、悪性脳腫瘍の中でも最も予後不良である神経膠芽腫の根治を目指した分子生物学的研究や、要介護の主原因である脳卒中、特に脳梗塞患者における機能障害からの回復を目指した、神経再生に関する研究も行っています。</p> <p><b>【指導内容】</b> 上記のテーマを中心に、当科では臨床講座ならではの基礎と臨床を融合させた研究を行っていますので、単なる研究のための研究ではなく、臨床に役立つ研究が行える人材の育成を目標として指導を行っています。</p>
<p>高次脳機能障害学 鈴木 匡子 斎藤 尚宏</p> <p>TEL : 023-628-5426 E-mail: kouji@mws.id. yamagata-u.ac.jp</p>	<p><b>【研究内容】</b> 脳の機能のうち、言語、記憶、行為など、もっとも人間的な機能は高次脳機能と呼ばれます。疾患や外傷により種々の高次脳機能障害が生じ、日常生活や社会復帰の大きな妨げになります。高次脳機能障害を深く知ることによって、脳損傷後の患者の状態を理解し、最適なりハビリテーションや生活の質の向上につなげることができます。また、認知症の高次脳機能障害を理解することで、医療・介護に役立てられます。</p> <p>博士前期課程では、症例を中心にして基本的な高次脳機能とその神経基盤について学ぶことを目標とします。</p> <p><b>【指導内容】</b> 以下ができるように指導します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高次脳機能の神経基盤を探るために必要な基本的な方法（神経心理学的診察・検査、神経解剖学、神経機能画像法など）を理解する。</li> <li>・症例を通じて高次脳機能障害の診かたを理解する。</li> <li>・自ら問題点を見つけて、助言を受けながら研究を計画し、実施する。</li> <li>・文献検索、学会発表、論文作成の基本を学ぶ。</li> </ul>

講座名・指導教員名等	研究内容・指導内容
リハビリテーション医療学 佐々木 幹 TEL : 023-628-5355	<b>【研究内容】</b> リハビリテーション医療学講座は運動器疾患，リウマチ性疾患をはじめとする様々な疾患，介護，社会福祉，災害支援の各分野に関連するリハビリテーション医学，医療学全般をテーマとしています。学位研究では，整形外科疾患を中心に運動器疾患に関連した画像解析，運動機能の解析，リウマチ性疾患患者のQOL，ADL解析，人工関節の生体親和性やバイオトライボロジー研究の中から，希望に合わせて研究テーマを選びます。 <b>【指導内容】</b> 研究の立案，研究方法の習得，学会発表，論文作成について指導します。リハビリテーション医学は幅の広い分野と関連する学問であるので，研究テーマを選択，決定するプロセスが特に重要と考えます。学生が将来進む分野で多方面に生かせるものの考え方を習得できることを目指します。
内科学第三（神経・内分泌代謝学） 加藤 丈夫 川 並 透 荒若 繁 樹 和田 学 TEL : 023-628-5316 E-mail: tkato@med.id. yamagata-u.ac.jp	<b>【研究内容】</b> (1) 神経疾患，特に運動ニューロン疾患，パーキンソン病，脊髄小脳変性症，アルツハイマー病，脳血管障害の病態の解明，治療法の開発。 (2) 糖尿病の病因遺伝因子の解析及びその病態に關与する諸因子の解析。遺伝性代謝疾患，特にポルフィリン症，セルロプラスミン欠損症の病因病態の解析。 <b>【指導内容】</b> (1) 分子疫学研究により疾患感受性遺伝子を明らかにし，機能解析により創薬に至るプロセスを指導する。 (2) 分子疫学研究では，臨床情報や遺伝子データの取り扱い方や倫理指針について指導する。また，統計解析の手法についても指導する。 (3) 機能解析では，分子生物学的手法，生化学的手法，病理学的手法を指導する。
血液・細胞治療内科学 石澤 賢 一 加藤 裕 一 TEL : 023-628-5316 E-mail : yukato@med.id. yamagata-u.ac.jp	<b>【研究内容】</b> (1) 造血器疾患，特に多発性骨髄腫，悪性リンパ腫および白血病の病態の解析 (2) 造血幹細胞移植における生着，急性移植片対宿主病および慢性移植片対宿主病の発症メカニズムの解析 <b>【指導内容】</b> (1) 分子疫学研究では，臨床情報や遺伝子データの取り扱い方や倫理指針について指導する。また，統計解析の手法についても指導する。 (2) 機能解析では，分子生物学的手法，生化学的手法，病理学的手法を指導する。
生化学・分子生物学 藤井 順 逸 TEL : 023-628-5229 E-mail: jfujii@med.id. yamagata-u.ac.jp Home page: http://www.id. yamagata-u.ac.jp /Biochem II / b2.html	<b>【研究内容】</b> (1) 酸化還元（レドックス）反応による生体応答の調節機構の解明 (2) 活性酸素による生体障害機構と老化促進機構に関する研究 (3) 酸化ストレスの関わる自己免疫疾患の発症機構に関する研究 <b>【指導内容】</b> (1) Superoxide dismutase 1 (SOD1), Peroxiredoxin 4 (Prdx4), Aldehyde reductase (Akr1a) 遺伝子欠損マウスをはじめとする遺伝子改変マウスの表現型解析と，そうしたマウスを用いた病態モデルの作製ならびに解析。 (2) 酸化ストレスと小胞体ストレスの分子機構に関する生化学的ならびに細胞生物学的解析。 (3) タンパク質の酸化修飾をはじめとする翻訳後修飾の解析。

講座名・指導教員名等	研究内容・指導内容
<p>生命情報工学 中村孝夫</p> <p>TEL : 023-628-5934</p> <p>E-mail: task-n@yz. yamagata-u.ac.jp</p>	<p><b>【研究内容】</b></p> <p>(1) 糖代謝の神経制御 (2) マイクロニューログラフィによる末梢交感神経機能計測とその応用 (3) 脂肪酸組成と細胞機能 (4) 心血管系の生体力学 (5) 心筋細胞組織工学 (6) 生体機能の相互発現機序に関するシステム論</p> <p><b>【指導内容】</b></p> <p>本講座では“もう一つの”EBM : Engineering Based Medicine を目指しながら、ほとんどの教育・研究を米沢キャンパス（工学部）内で行う。内容は工学を駆使した測定・解析系の構築とそれを用いた応用研究で、いわゆる生体工学・医工学と呼ばれる分野である。工学的立場からの医学・医療への approach 法を教示するとともに、その研究 process を通して、研究者として、また社会人として一般的に備えていなくてはならない資質も同時に獲得していけるよう指導する。</p>
<p>動物実験医科学 藤井順逸(兼)</p> <p>TEL : 023-628-5229</p> <p>E-mail: jfuji@med.id. yamagata-u.ac.jp</p>	<p><b>【研究内容】</b></p> <p>当講座はヒトの各種病態と他種動物の病態を比較研究する比較医学と先端研究に対応する実験動物技術の開発を主な研究分野としている。</p> <p>当講座では遺伝性高トリグリセリド血症ウサギ (TGH) 及びそれから分離して育種した食後高トリグリセリド血症ウサギ (PHT) を開発し、その基本的な性状を明らかにするとともに、ヒト疾病との類似性について研究を重ねてきた。これら動物の性状はヒトのメタボリックシンドロームの病態に酷似しており、有用な疾病モデルとして期待されている。これら病態発現に関わる遺伝子の挙動も徐々に明らかとなり、今後さらに広汎な特性解析を進めたいと考えている。</p> <p><b>【指導内容】</b></p> <p>現在、上記モデル動物について病態発現に関与する遺伝子を特定すべく、脂質代謝や糖代謝の制御に関わる遺伝子群を網羅的に解析中である。従って、リアルタイム RT-PCR 法や塩基配列の解析などの分子生物学的な手法は必須の技術として修得させている。一方、病態動物そのものの遺伝・育種・繁殖技術の修得も重要な視点であり、併せて動物福祉に立脚した適正な動物の取扱い技術を修得させることも目標のひとつと考えている。その様な技術を修得する過程を通じて、単にゲノム解析のみに終始しない丸ごとの生命現象が理解できる研究者、技術者の養成を目指している。</p>

講座名・指導教員名等	研究内容・指導内容
<p>遺伝子実験医科学 中 島 修</p> <p>TEL : 023-628-5901 E-mail: nakajima@med.id. yamagata-u.ac.jp</p>	<p><b>【研究内容】</b></p> <p>(1) トランスジェニックマウス（遺伝子導入マウス）やノックアウトマウス（遺伝子破壊マウス）の作製および表現型解析を通じた、ヘム生合成分解関連遺伝子（5-アミノレブリン酸合成酵素 ALAS, ヘムオキシゲナーゼ HO など）の生理機能の解析やヘム欠乏またはヘム過剰により生ずる病態の解明。ヘム欠乏性貧血やポルフィリン症（ヘム代謝異常）の病態モデルマウスの確立とその治療法開発への応用</p> <p>(2) 時計遺伝子 <i>Cry</i> のヘム結合モチーフの生理機能解析および、<i>Cry1</i> による糖代謝制御メカニズムの解明</p> <p>(3) 赤血球系細胞での鉄代謝制御に関わる分子の同定とその鉄代謝異常との関連の解明</p> <p><b>【指導内容】</b></p> <p>マウスをモデル動物として利用した、分子生物学研究を遂行できるよう、遺伝子発現解析実験などの分子生物学の基礎実験手技や DNA 組換え実験手技を中心に、研究テーマに即して、実戦的に指導する。遺伝子改変マウス（トランスジェニックマウス、ノックアウトマウス）の作製技術についても指導を行う。</p>
<p>遺伝情報解析学 加 藤 丈 夫</p> <p>TEL : 023-628-5316 E-mail: tkato@med.id. yamagata-u.ac.jp</p>	<p><b>【研究内容】</b></p> <p>ヒトゲノム計画の完了により、ヒトゲノムの全塩基配列が明らかになりゲノム医学研究は新たな段階に突入した。特に、ヒトゲノムの多様性を明らかにし、様々な疾患と遺伝子の関わりを探索して疾患の予防や治療につなげることが、21 世紀前半の医学研究における最重要課題の一つとなっている。</p> <p>一方で、ヒトゲノムから得られる情報は極めて膨大である。遺伝情報解析学は、この膨大なデータのコンピューターを十全に活用した解析や、その解析方法の開発を行う学問で、生命科学と情報科学が融合して生まれた全く新しい分野である。</p> <p>現在、山形大学医学部ではゲノムコホート研究が進行しており、学内に遺伝情報データベースが構築されつつある。本講座では、この研究基盤を利用し、次世代の医療につながる遺伝情報解析学研究を行う。</p> <p><b>【指導内容】</b></p> <p>地域との密接な連携をもとに進められる疾患感受性遺伝子や薬物感受性遺伝子探索等の研究成果から、トランスレーショナルリサーチを経て創薬に至るまでのベンチャービジネスモデル構築の概論を講義するとともに、インフォームドコンセント、個人情報管理等の倫理問題、研究成果の地域住民への還元モデル等についても考察を入れる。</p>

講座名・指導教員名等	研究内容・指導内容
<p>がん口腔ケア歯科衛生士養成コース</p> <p>歯科口腔・形成外科学 飯野光喜</p> <p>TEL : 023-628-5413 E-mail: m-iino@med.id. yamagata-u.ac.jp</p>	<p><b>【研究内容】</b> 近年、がん医療における口腔ケアの重要性が特に強調されてきている。口腔ケアは、がん化学療法や放射線治療中の口内炎を軽症化して治療完遂率を向上させることや、頭頸部・上部消化管悪性腫瘍手術や心臓血管外科手術などの術後合併症予防や高齢者の誤嚥性肺炎予防に有効であることはよく知られている。本コースでは、山形大学でのがん治療を通して</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 口腔ケアががん患者の口腔環境に与える影響</li> <li>2. 各病態に対応する適切な口腔ケアの検討</li> <li>3. 口腔ケアとがん患者の QOL</li> </ol> <p>などについて研究する。</p> <p><b>【指導内容】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・講義 1 新 ISTU システムの臨床腫瘍学特論 I ～ III の講義項目の中で特に口腔ケアと関連の深い 16 講義を聴講し、A4 紙 1 枚程度のレポートを提出する。加えて、他の講義を聴講することも可。各講義聴講後に A4 紙 1 枚程度のレポートを担当教官に提出する。</li> <li>・講義 2 山形大学医学部のがん治療への取り組み、特にがんセンターの各部門 (CTB, 緩和ケアチーム, がん化学療法室, がん患者相談室など) の活動について講義する。</li> <li>・病院実習 歯科口腔外科病棟を中心に、手術、病棟での処置、術前術後管理の実際を見学する。また、歯科口腔外科で行われている口腔ケアに参加する。</li> </ul>

講座名・指導教員名等	研究内容・指導内容
<p>医薬品医療機器評価学 村上正泰 (兼)</p> <p>TEL : 023-628-5931 E-mail: mmurakami@med. id.yamagata-u.ac.jp</p>	<p><b>【研究内容】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 東アジア地域の国際共同治験に関する研究</li> <li>(2) 医薬品の製造販売後の安全対策に関する研究</li> <li>(3) 医薬品の承認条件に関する研究</li> <li>(4) 後発医薬品の安全性、有効性に関する研究</li> <li>(5) 医療関係者、患者等への情報提供に関する研究</li> <li>(6) 医療機器添付文書の在り方に関する研究</li> </ol> <p><b>【指導内容】</b> 医薬品・医療機器については、開発から承認審査、製造販売後の全ての過程において、リスク (副作用等) を最小化しベネフィット (有効性) を最大化することが必要であり、そのための評価方法や方策等について実例を踏まえながら指導する。</p>



講座名・指導教員名等	研究内容・指導内容
<p>がん口腔ケア歯科衛生士養成コース            ※所属講座を問わず専攻できるコース</p> <p>歯科口腔・形成外科学            飯野光喜</p> <p>TEL : 023-628-5413            E-mail:            m-iino@med.id.            yamagata-u.ac.jp</p>	<p><b>【研究内容】</b>            がん治療中に実施する口腔ケアは専門的な知識と技能が要求される。本コースでは、がん患者に対して効果的な口腔ケアが実践できる歯科衛生士を養成するため、がん化学療法、放射線療法そして手術療法などに関する基盤的知識を講義するとともに、口腔ケアに関する理論と実践を教育する。これを通して、歯科衛生士ががん治療を受ける患者の口腔環境の変化ならびに、積極的な口腔ケアがどのような変化をもたらすかを研究する。合わせて、口腔ケアが患者のQOLに与える影響を研究する。</p> <p><b>【指導内容】</b></p> <p>1. がん治療に関する基盤的知識の講義            がんの生物学、がんの疫学と検診、腫瘍外科学概論、化学療法概論、放射線療法概論、緩和医療概論、がん治療と倫理、頭頸部がんなどについての基本的事項を講義する。具体的には、「がん治療認定医 教育セミナーテキスト」を参考にし、重要な部分をわかりやすく概説する内容とする。</p> <p>2. 実習</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・山形大学で行われている CTB(cancer treatment board)や頭頸部癌手術を中心としたがん手術療法を見学する。</li> <li>・歯科口腔外科病棟を中心に、病棟での処置、術前術後管理の実際を見学する。</li> <li>・歯科口腔外科で行われている口腔ケアを見学および介助する。</li> </ul>

**リサイクル適性** (A)

この印刷物は、印刷用の紙へ  
リサイクルできます。